

俊英ガリン・ヌグロホ監督が  
女優クリスティン・ハキムと組み  
インドネシアから世界に贈る、魂のメッセージ。

大都会の片すみに  
母を慕う子どもたちの  
忘れられた歌がある。

第51回カンヌ国際映画祭「ある視点」正式出品  
第11回東京国際映画祭審査員特別賞受賞

# 枕の上の葉

ガリン・ヌグロホ監督作品 クリスティン・ハキム製作、主演

## 世界の名画を見る会 vol.12

(企画・構成 高野悦子)



●講演● (14:00~)  
「枕の上の葉とインドネシア」  
高野悦子 (岩波ホール総支配人)

●映画上映● (15:00~)  
「枕の上の葉」(インドネシア映画)

### ■お問い合わせ

財団法人 黒部市国際文化センター  
TEL(0765)57-1201 FAX(0765)57-1207

### ■プレイガイド

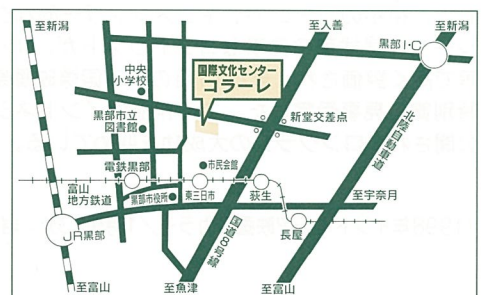
|     |   |  |
|-----|---|--|
| 黒部  | コラーレ<br>メルシー<br>ロイヤルバリー黒部                                       | ☎(0765)57-1201<br>☎(0765)54-2221<br>☎(0765)54-1000                                     |
| 魚津  | 新川文化ホール<br>魚津サンプラザ  | ☎(0765)23-1123<br>☎(0765)24-3030   |
| 入善  | コスモホール<br>コスモ21   | ☎(0765)72-1105<br>☎(0765)74-9100   |
| 宇奈月 | 宇奈月国際会館   | ☎(0765)62-2000   |
| 朝日  | アスカ   | ☎(0765)82-2000   |
| 富山  | インフォマート<br>[市民プラザ]<br>[CiC 駅前店]<br>北日本新聞社<br>富山県民会館<br>富山映画サークル | ☎(076)491-0110<br>☎(076)444-7013<br>☎(076)445-3300<br>☎(076)432-3111<br>☎(076)432-3931 |
| 高岡  | 高岡大和  | ☎(0766)27-1774   |

# '99 11月28日 日

開場 13:00 開演 14:00

黒部市国際文化センター **コラーレ** (カーターホール) 入場料/1,200円(全席自由) 当日1,500円

※5歳未満のお子さまの入場はご遠慮願います。一時保育を希望される方は事前にご連絡ください。



世界の人々を大きな感動でつつんだインドネシアの名作、いよいよ公開!

# 枕の上の葉

大都会の片すみに母を慕う子どもたちの忘れられた歌がある。

監督/ガリン・ヌグロホ 脚本/アルマント、ガリン・ヌグロホ 撮影/ヌルヒダヤット 音楽/ジャドゥク・フェリアント 編集/セムトット・サヒッド  
録音/フィル・ドゥド、ハンティ・イルファト 美術/ルジト、オング・ハリ・ワハユ、トニー・トリマルサント 衣裳/ジュジュク・ブラボウォ 製作/クリスティン・ハキム  
クリスティン・ハキム スグン、ヘル、カンチル (クリスティン・ハキム・フィルム) 1998年インドネシア映画

●「枕の上の葉」(1998)は、インドネシアのジャワ島にある都市ジョグジャカルタで、物乞いや、臨時雇いの仕事をしながら暮らすストリート・チルドレンの物語である。3人の少年、ヘル、スグン、カンチルは、故郷を遠く離れて、ジョグジャカルタで路上生活をしていた。彼らは、露店商の女性アシーに母の愛を求めて、未来を夢見ていたが、その願いもむなしく次々に悲しい運命を辿っていく。題名は“生命”を意味し、“枕”は母を、“葉”は小さな生命、子どもたちを象徴している。

●監督のガリン・ヌグロホは、インドネシアを代表する俊英である。作品は、劇映画第1作「一切れのパンの愛」(91)でアジア太平洋映画祭最優秀新人監督賞、第2作「天使への手紙」(93)で東京国際映画祭ヤングシネマ・コンペティションのゴールド賞、第3作「そして月も踊る」(95)でベルリン国際映画祭国際批評家連盟賞を受賞するなど、世界で高く評価されている。95年に、ヌグロホ監督はストリート・チルドレンを題材にして、ドキュメンタリー作品を日本と共同製作した。そのなかで彼は改めてこの問題の深さを知る。第4作にあたる「枕の上の葉」は、実際に起こった事件から着想を得て脚本はつくられ、主役の子どもたちは、ジョグジャカルタのストリート・チルドレンのなかから選ばれた。

●現在、世界の子どもの多くは、戦争や貧困などによって、大きな犠牲を強いられている。インドネシアにおいては、社会的、経済的危機が高まるなかで、学校に行けない子どもたちが急増し、親の虐待から逃げたり、親に置き去りにされて、路上での生活を余儀なくされている。映画で子どもたちがアシーを慕うように、ストリート・チルドレンは、死が日常的に存在するなかで、いつも心の傷を癒してくれる母親に憧れている。

●製作と主演の2役をこなしたクリスティン・ハキムは、インドネシアを代表する女優で、内外で多くの賞に輝いている。日本ではエロス・ジャロット監督「チュツ・ニヤ・ティン」(88)、小栗康平監督「眠る男」(96)の主演で知られ、97年にはすぐれた芸術家に贈られる山本安英賞を受賞している。「枕の上の葉」では、厳しい境遇のなかで懸命に生きる女性アシーを演じ、その存在感は観る者を圧倒する。ハキムは、デビュー以来25年間、常にインドネシアの大衆とともに、映画人生を歩んできた。初プロデュースしたこの作品には、社会の現状を告発し、貧しい人々に希望を与え、さらには停滞する自国の映画界に刺激を与えるという彼女の願いがこめられている。

●「枕の上の葉」は、98年の5月、世界を揺るがしたインドネシア騒乱の最中に完成した。スハルト大統領が退陣に追い込まれた直後に、カンヌ国際映画祭で世界初上映されると、その社会的メッセージと芸術性は人々に大きな感動を巻き起こした。ハキムと子どもたちの演技の素晴らしさとともに、街中のシーンのドキュメンタリー的なタッチと屋内シーンの様式美の見事なコントラストが、「ル・モンド」紙等で高く評価され、また11月の東京国際映画祭では審査員特別賞を見事受賞した。この作品はインドネシア本国でも公開され、ロングランの大成功を収めている。



(1998年インドネシア映画/カラー/1時間23分/岩波ホール配給)